

地域自立支援協議会 会議要録

会議名:令和6年度第1回白井市地域自立支援協議会全体会

日 時:令和 6 年5月 23日(木)

場 所:団体活動室2・3

出席者:林委員(会長)、鈴木委員(副会長)、飯ヶ谷委員、大網委員、高木委員、東坂委員、橋本委員、高橋委員、
野路委員代理小倉氏、吉田(鈴)委員、横尾委員、染谷委員、吉田(翔)委員、小林委員、村松委員、久
松委員、秋本委員(17名)(以下、敬称略)
事務局(石田課長、伊藤、浦尾、久保田、秋濱)

欠席者:実松委員、石川委員、山崎委員、松島委員

傍聴者:0名

資 料:会議次第

資料 1	自立支援協議会の概要・白井市地域自立支援協議会設置要綱
資料 2	白井市地域自立支援協議会設置要綱
資料 3	令和 6 年度 年間予定表
資料 4	白井市地域生活拠点等 登録事業所一覧

議 題:

- (1) 白井市地域自立支援協議会について 事務局 資料1
- (2) 会長及び副会長の選出について
- (3) 部会の設置について(部会員の振り分け、部会長の選出について) 事務局 資料2
- (4) 令和 6 年度地域自立支援協議会年間予定について 事務局 資料3
- (5) 地域生活支援拠点の登録等について 事務局 資料4
- (6) その他

内容:

【委嘱状交付式】

変更等委員委嘱 交付

【白井市地域自立支援協議会会議】

委員自己紹介

飯ヶ谷:座ぐりの相談支援専門員。市の障害者相談支援の委託を受けている。子どもから大人までの計画相談。
自立生活援助事業。

大網:にこにこ相談室。子どもから大人までの計画相談。どれだけ丁寧に接することができるかが自分の課題。
にこにこ仕事ができる環境がいい支援につながっている。

鈴木:レアーリ相談支援事業所。白井市近隣の精神障がい対象の計画相談。

林:フラット理事長。座ぐりのほか、生活介護、放課後等デイサービス。重度の利用者多い。自身の強い希望で
サービス管理責任者として、毎日現場に入っている。

高木:4月から明朗アカデミー白井キャンパス管理者。18歳から65歳までの就労移行支援、就労定着支援。

東坂:ワークルーチェ。就労継続支援 B 型。主にパン・カフェ。生活リズムを整え一人一人が輝けるようにという
理念。これまで高齢者福祉に携わっており、時間があればそちらの事業も手伝っている。

橋本：成田地域生活支援センター。精神障がいの方の相談、地域生活支援。県から委託の精神障がいの地域包括ケアシステム構築のためのいんば地域コーディネーター。

高橋：小池病院。精神科のない白井市の方に、迅速に対応していきたい。

小倉：湖北特別支援学校。教頭は野路。高等部のみの学校。職業自立、社会自立が目標。

吉田：松戸特別支援学校。7市が学区。肢体不自由。高等部まで最大12年間在籍可能。9割が重度・重複・医ケア。医ケア43名は県内で最も多い。特別支援教育コーディネーター。地域のお子さんの教育を充実させたい。

横尾：教育支援課。市内小学校9校、中学校5校の特別支援教育を担う。よりよい就学、就労につなげたい。

染谷：工業団地協議会233社加入の団体。障がい者の就労の役に立ちたい。

吉田（翔）：明朗塾。印旛圏域の就労・就業支援。この仕事は2年目。自立支援協議会で学びを深めたい。

小林：手をつなぐ育成会。情報提供を中心に活動。7月10日に災害の在宅避難の研修を、10月は法律に詳しい講師による研修会実施予定。講師や学ぶテーマの提案あれば教えてほしい。

村松：白井市精神障がい者家族会。社会参加のきっかけとしてボランティアや就労に期待。情報収集させていただきたい。

久松：いちごの会。こども発達センターに通う保護者の有志の会。情報にたどりつけない方が多くいる。利用者の目線で情報を隅々まで届けたい。

秋本：社会福祉協議会。個別生活支援グループ。日常の金銭管理、成年後見人。会議には昨年度から参加。

議題(1) 白井市地域自立支援協議会について 事務局 資料1

事務局より資料1に沿って説明。

▶承認

林：希望があれば自立支援協議会に入れるか。また、他の部会は希望すれば入れるか。

事務局：全体会委員は人数の制限はある。部会は希望を聞きながら、部会長と相談しながら決定する。

小林：個人的な希望だが、自身の子が特例子会社で働いているので就労にも参加したい。

事務局：今後、部会長と相談し検討する。

議題(2) 会長及び副会長の選出について

会長は、推薦により林委員、副会長は推薦により鈴木委員。

▶承認

<会長挨拶>

白井市に20数年前、民間の福祉事業者がほとんどいないところから始まった。制度改正もあり事業所が増えてきた。多くなればなるほど、当事者・ご家族の方・行政関係機関・事業者とより濃く連携して、いいものを作ることが自立支援協議会に求められている。会議は多く開催できないが、その場で出てきたことを一緒に話し合い、進めていきたい。皆様の忌憚のないご意見や取り組んでいきたい内容を踏まえ、よいものを作っていきたい。

議題(3) 部会の設置について(部会員の振り分け、部会長の選出について) 事務局 資料2

事務局より資料に沿って説明。

林：部会長の選出、生活支援部会と就労部会。部会長の立候補は。(なし)では、事務局一任。

事務局：案としては、生活支援部会部会長 飯ヶ谷委員、副部会長は大網委員。

▶承認

林：就労支援部会の部会長と副部会長の立候補は。

高木：（手上げ）部会長。

▶承認

林：副部会長は。

事務局：案としては副部会長に実松委員。皆様の承認あれば、本人に連絡。

▶承認

議題(4) 令和6年度地域自立支援協議会年間予定について 事務局 資料3

事務局より資料に沿って説明。

鈴木：会議の曜日や時間は決定か。

事務局：部屋を前年秋頃に仮でおさえている。委員同士で話し合い日時を調整し、場所があれば変更可能。現時点で参加できない日程がある場合は教えてほしい。

鈴木：ない。毎年のことなので時間など把握はしている。

久松：出席するのは表の○のついている会議と日程表の日付でよいか。グレーの網掛けのところは出席するか。

事務局：中心となる議題内容が違う。グレーの網掛けは別名簿で管理。医ケア会議の参加は「医」がついている方のみ。

議題(5) 地域生活支援拠点の登録等について 事務局 資料4

事務局より資料に沿って説明。

飯ヶ谷：今年度、拠点の機能が国で整理された。地域移行と緊急時の受入れ対応。事業所が把握していない方を拠点コーディネーターが把握し登録、一時アセスメントをして、何かあったときに安心してサポートしてもらえる体制づくり。精神科病院や入所施設からの地域移行に加え、在宅の方の一人暮らしへの移行が拠点の機能として今年度から示され、拠点コーディネーターは必要。部会で早急に拠点コーディネーターの配置について詰めていきたい。

林：基準案は、国が示したものか、市の独自案か。

事務局：他市の基準や過去の国の通知を基に作成。

林：ここで意見が出なければ、これで決定か。

事務局：1か月の間にご意見いただきたい。生活支援部会でも再度報告する。事業所と個別に協議する予定。

林：個別に協議ということは、基準は事業所ごとに変わるのか。統一されない？

事務局：最低限のみ示した基準。事業所との協議で譲り合う可能性はあるが不確定。向こう1か月で委員から個別に意見も伺い、それを踏まえて、相談ワーキングで報告できればと考えている。スケジュールはずれる可能性はある。意見をもらい、協議し、最終的な決定は市で行う。

林：向こう1か月意見を聞くということで間違いないか。

事務局：具体的なスケジュールは未定だが、6月の相談ワーキングで報告し基準を市で決定したいと考えている。

林：相談ワーキングで決まる？

事務局：個別の意見をいただいたうえで、相談ワーキングで具体的な意見を聞く予定。基準については、市で決定する。

林：そもそも地域生活支援拠点が、白井市にどこまで浸透しているか不安。生活の仕方もそれぞれ。過ごす場所や生活の場を増やしたい。今はフラットー法人が拠点として登録しているが、法人によって得意な分野が違う。

オール白井で支援していきたい。経営的にはデメリットしかなく、熱意のみ。市外に行ったまま戻ってくれないということがないよう、頑張りたい。

(6)その他

事務局より、基幹相談支援センターについての現状の報告。

- ・ 自立支援協議会での意見も踏まえながら、令和7年4月開設を目標。4月に委託業者の公募をしたが応募なし。参加の資格要件と職員の資格要件を変え再度公募中。
- ・ 基幹相談支援センターは、市民の精神安定につながる注目度の高い取り組み。他市の基幹相談支援センターや県に相談し、市内事業者との連携し理解・協力を得ながら進めていく必要があること、人材不足もあり事業拡大しての公募は難しいこと、運営は委託が望ましいこと、人員確保のための人材育成は県全体で取り組んでいく必要があること等の助言を受けた。予定通り令和7年4月の基幹スタート準備を進めていくので、ご理解・ご協力をお願いしたい。

以上